

## 2 1世紀に向け！広がれ婦人の輪と力

七ヶ浜町漁業協同組合代ヶ崎浜婦人部会

部 会 長 伊 藤 と き

### 1. 地域の概要

宮城県七ヶ浜町は、県の中央部に位置し、人口21,538人・面積13km平方で県内で一番小さい7つの漁村集落の町である。三方を海に面し南は果てしなき太平洋に面し、東は遠く金華山の麗峰を望み、北東に日本三景の景勝を誇る大小の島々が点在し、西には仙台市・多賀城市・塩竈市の3市に隣接し、遙かに奥羽の連峰を展望する県下の景勝の地である。七ヶ浜町は、遠い昔から海の恵みを受け、漁業の町として発展し沿岸漁業と共に海苔の養殖漁業が盛んで地場産業の基幹をなしており、その7つの漁村の1つである代ヶ崎浜は人口988名・世帯数240戸の集落である。

### 2. 漁業の概況

(1) 宮城県の漁業生産額は、1,164億円・漁業経営体数5,037の全国第4位の漁業生産県である。

(2) 七ヶ浜町の主幹漁業は、海苔養殖で県下水揚げ金の64億円のうち38億円59%を占めている。

ただ、産業別漁業就業者率が昭和40年代漁業就業者数2,400余名・就業率40%が直近時の統計では500余名・就業者率5.5%とピーク時の7分の1に減少しているのが現状である。

### 3. 漁協婦人部の組織と運営

#### (1) 七ヶ浜町漁協代ヶ崎浜婦人部会の歩み

当初私達は昭和30年10月に代ヶ崎浜漁協婦人部として誕生し活動をしてきた。しかし、同地域内には地区の婦人会があり色々の活動をする中で地区婦人会と漁協婦人部の部員が殆ど同じであり、活動内容が同じであるものが多々あった。

こうした中であって漁協婦人部が誕生してから29年を迎えた昭和59年5月に地区婦人会と漁協婦人部とが、色々な問題や反対意見等苦労も有りましたが、他の地区に先駆けて合併をし、現在の七ヶ浜町漁協代ヶ崎浜婦人部会が誕生した。

#### (2) 合併した利点等

特に生活改善運動や生活設計の為の家計簿の記帳、環境美化<トイレの水洗化>や合成洗剤追放運動更には魚食普及運動等地域あげての運動は、地域全体が推進することで其の波及効果が顕著にみられる強い組織とまで成長する迄になった。

又、県下の漁婦連の部員数は平成元年度と平成10年度末の比較をみると表1の通り減少率23.8%に対し私達婦人部会員数の減少率は2.9%で、死亡で後継者がいない場合

や他の地区に転居した方のみで有り、この方達以外は一人の脱退者もなく今日に至っている。

表 No 1 <漁協婦人部員数調べ>

#### 4. 活動・実践課題の選定と動機

これまで私達漁協婦人部会は、漁業と暮らしを守り豊かな漁家生活を目指し部会員間の連携と協調の中で後ほどお話致します活動を実践してきた。しかし、西暦2000年を迎えましたが、これまで走り続けてきた産業・企業、そして多くの人達が1990年後半の世紀末に立ち止まり、自らの姿を見直す時ではなかったでしょうか？。

こうした中であって、これまでの婦人部会活動から漁業と漁協系統組織の発展の為に新たな課題として何に取り組み、何を実践すべきかを「21世紀に向け広がれ！婦人の輪と力」と題してこれ迄の活動の成果を振り返り、新世紀の新しい時代に飛躍できる漁協婦人部のあり方について考え実践する。

#### 5. 活動実績とその成果

「夢のもてる漁業・後継者にも安心できる漁業経営」には何が必要か等真剣に話し合いをした。先ず取り組みの一つは「漁家の所得の一ヶ年分を私達が作った私達の漁協へ蓄積を」、「不漁に耐えられる漁家に」と貯蓄運動に家計を預かる部会員が家計簿の記帳や予算会計の実施・漁業経費と家計費の区分等積極的に実施する事とした。

その積み重ねが今では組合貯金量は漁業者の減少で水揚げ金が低下傾向化にあるが、表2の通り平成10年度は漁業生産額2億900万円の約6倍の13億2200万円の実績としてあげることに至った。

表 No2 <貯金残高と水揚金推移>

##### <イ>婦人の力と夢を叶える

こうした運動の中で、私達部会員が「自分達が自由に使える口座を開設」するなど過去には考えても見なかったが私達の一人一人の名前で婦人部貯金や旅行積み立て貯金を実施することとした。自分達の口座を開設した時の感激は忘れる事が出来ません。特に主人からの理解を頂き水揚げ金の一部を支援して頂いたし、組合からの色々の指導等を頂きこの活動が今も自分達の暮らしを守る活動として継続している。

##### <ロ>旅行貯金で夢が叶う

「自分達の見聞と、他の地域の人たちの交流を」と旅行貯金を企画・実行した。特に印象に残った旅行は、昭和63年の春、部会員43名による初めての飛行機での旅である。北海道道南の三泊四日の旅、43名で緊張して乗った飛行機、その飛行機では毎日漁に出る夫婦船より乗り心地よいとの話がだされたり、又スチュワーデスさんとの記念写真<実はフィルムが入ってなくて後での笑い話>等、嫁にきてから味わった束の間の開放感と自分達の企画が現実となった喜びで私達部会員の絆が更に強く、太くなった。

##### <ハ>老後の為に

昭和52年2月に組合窓口で国民年金の受け取りが実現する事になり親組合・信漁連の指導の基「年金の組合窓口推進とその一部を蓄える」ことを合い言葉に推進をし、表3の通り平成10年度では221名で年間1億2600万円の年金受け取り金額になり、その一部が老後の蓄えとなっている。

表 No 3 <年金受給者年金受取金額の推移>

又「暮らしに力」を合い言葉に推進した共済の推進実績は表No4の通りの実績である。これらの推進活動に対し昭和42年に貯蓄優良団体として大蔵大臣・日銀総裁の表彰を、平成5年に共済推進の活動にたいして水産庁長官賞他の受賞という名誉を頂いている。

## 6. 波及効果

家計を預かる婦人が貯蓄運動や共済事業推進等に取り組むことで老後の生活設計を踏まえた安心でゆとりと夢のある漁家生活に止まらず、漁業経営の為の漁船の建造・生産設備の投資も計画できる漁家経済を夫と共に歩む迄の力となった。

更には色々な活動で培った協調・連携は地域の諸活動やボランティア活動に輪が広がり、婦人の力とその結集はあらゆる活動を可能にしてきたと確信した。

僅かな一漁村の私達の活動が常に県下のモデルと評価され県内各婦人部活動の発震源となり、同様な活動が県下各地区へ波及していると聴いている。

## 7. 今後の課題や計画と問題点

### (1) 親組合の合併と婦人部の統合について

私達七ヶ浜町内7つの漁協が結集し、平成11年10月1日に宮城県下第1位の組合員数1334名・貯金残高64億円・販売取扱高20億円の新しい組合が誕生した。

こうした中漁協婦人部会も新たな視点で婦人の輪と力を親組合同様七ヶ浜町全域に広げ取り組む必要があり、各婦人部との連携を図りながら早急に婦人部会の統合について決断をし、実行していきたいと考える。

### (2) 親組合への参画

合併により組織基盤が構築され、新たな21世紀に向け、これまでの作り・育て・獲る漁業資源・漁業管理の水産業としての漁業から、生産・加工・流通・販売に連動した水産業の位置づけが必要と判断する。

その中には、農協・生協との販売面での連携や、情報販売等が課題であり、私達婦人部会も親組合の下部組織から脱却し、平成11年6月男女共同参画基本法の施行等もあり我々婦人部員から組合経営に参画する組合役員も実現したい。

### (3) 高齢化社会への取り組み

農漁村の老齢化は都市とくらべ20年先行していると言われている。今年4月から「介護保険制度」が始まるが、一人暮らしの老人や地域の要介護者と漁協婦人部の取り組み方を新しい運動として取り組む。

最後となりますが、漁業が他の産業と競争出来る「人」「組織」「商品」を作り、漁業・漁村の活性化を発揮するよう、これまで以上に地域婦人が協同組合の原点に立ち相互扶助と自立の精神に基づいて21世紀を展望し、更なる浜の婦人部のパワーをいかに発揮しこれまでの活動と実績に基づき限りなく前進を図っていく事をお誓いし私の発表とする。

表 NO 1

漁 協 婦 人 部 員 数 調 べ

平成年度	県漁婦連		代ヶ崎婦人部会	
	部員数名	減少率	部員数名	減少率
1年度	5,998	0.0%	204	0.0%
2年度	5,810	3.1%	203	0.5%
3年度	5,775	3.7%	203	0.5%
4年度	5,536	7.7%	201	1.5%
5年度	5,447	9.2%	201	1.5%
6年度	5,189	13.5%	201	1.5%
7年度	4,978	17.0%	201	1.5%
8年度	4,862	18.9%	199	2.5%
9年度	4,726	21.2%	199	2.5%
10年度	4,571	23.8%	198	2.9%

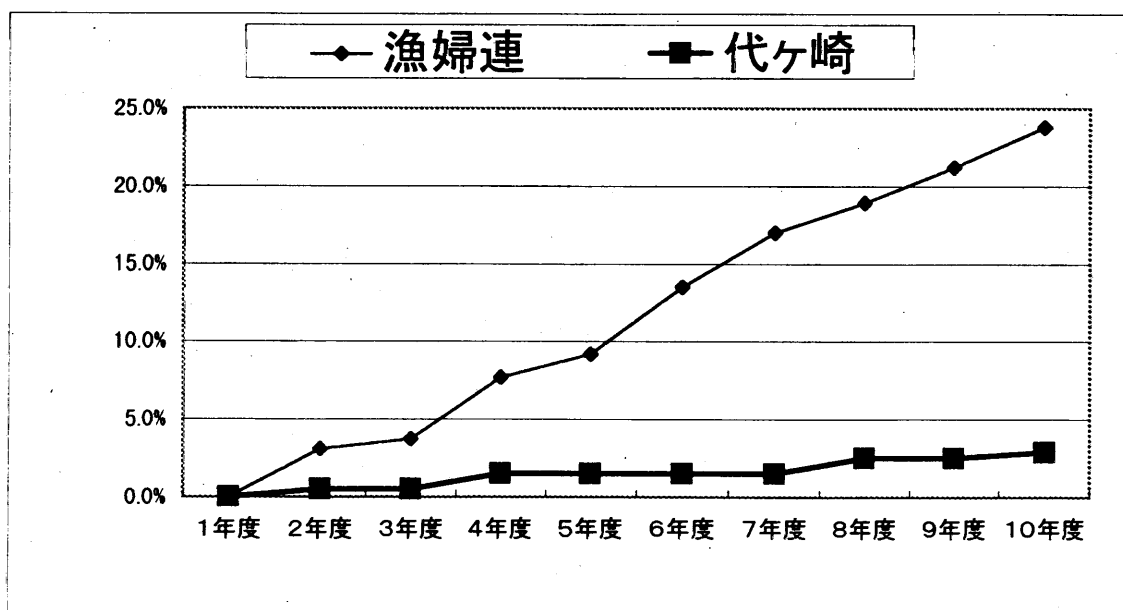


表 NO 2

貯金残高と水揚金推移

金額単位:百万円

平成年度	貯金残高	水揚金	A/B
	A	B	
1年度	935	197	4.7 倍
2年度	1,029	162	6.4 倍
3年度	1,069	192	5.6 倍
4年度	1,228	259	4.7 倍
5年度	1,301	230	5.7 倍
6年度	1,291	155	8.3 倍
7年度	1,273	214	5.9 倍
8年度	1,326	244	5.4 倍
9年度	1,377	273	5.0 倍
10年度	1,322	209	6.3 倍

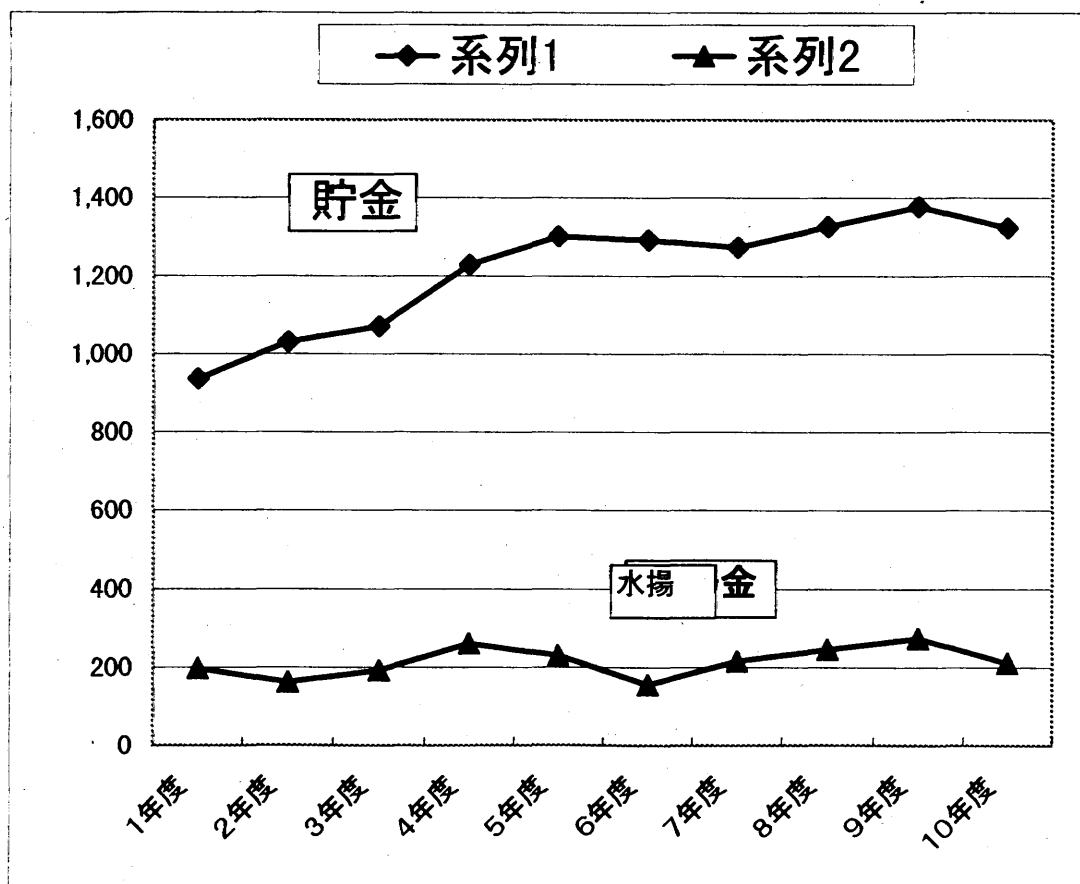


表 NO 3

# 年金受給者年金受取金額の推移

金額単位：百万円

年度	受給者	受給金額	平均受取金額
昭和52年度	39	10	0.3
↓			
平成1年度	161	68	0.4
平成2年度	184	74	0.4
平成3年度	190	81	0.4
平成4年度	200	92	0.5
平成5年度	202	98	0.5
平成6年度	207	110	0.5
平成7年度	212	115	0.5
平成8年度	214	118	0.6
平成9年度	212	124	0.6
平成10年度	221	126	0.6

年金受給額推移

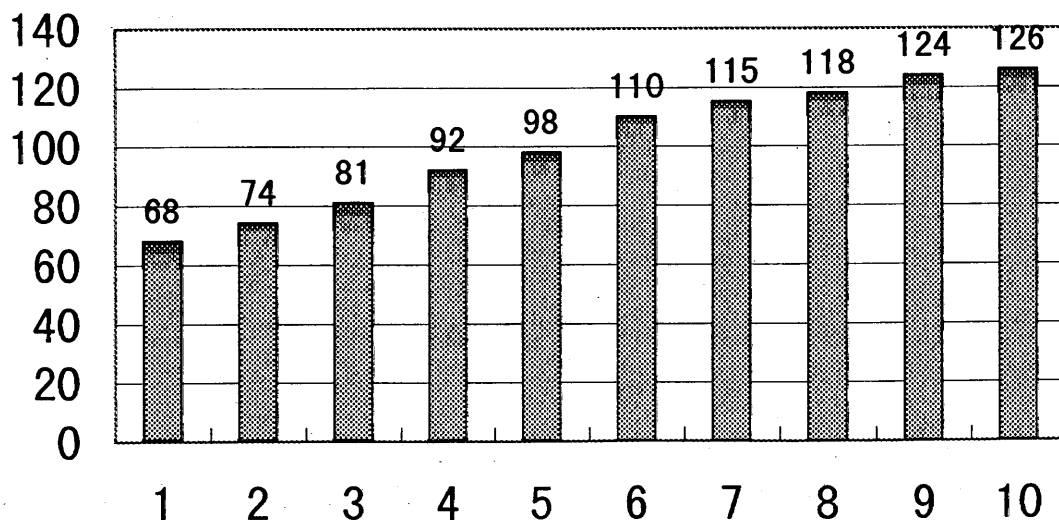


表 No 4

## 長期共済実績推移

金額単位: 百万円

平成年度	普通厚生共済 チヨコー		生活総合共済 くらし		合計	
	件数	保有残高	件数	保有残高	件数	保有残高
1年度	250	739	50	309	300	1,048
2年度	272	898	57	405	329	1,303
3年度	301	1,213	67	500	368	1,713
4年度	338	1,491	79	610	417	2,101
5年度	363	1,671	90	718	453	2,389
6年度	382	1,847	102	849	484	2,696
7年度	397	2,063	130	1,158	527	3,221
8年度	427	2,285	140	1,257	567	3,542
9年度	438	2,461	144	1,313	582	3,774
10年度	412	2,515	139	1,270	551	3,785

